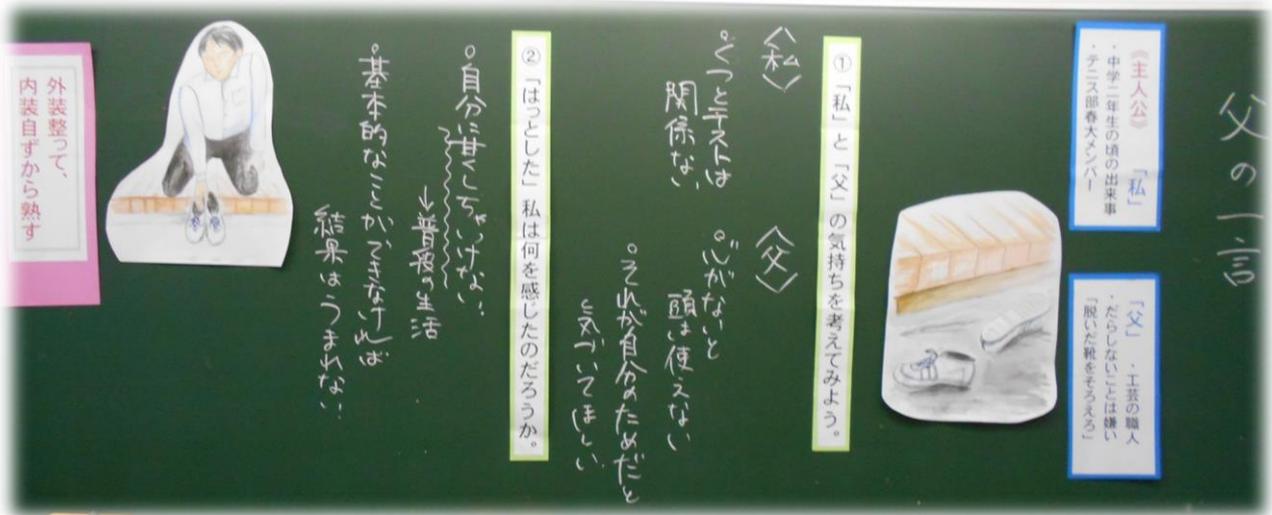


杉戸町立杉戸中学校

B 部会

主題名 規律ある態度 (1)自主・自立、自由と責任

資料名 「父の一言」(彩の国の道徳「自分をみつめて」)



授業風景



ワークショップ型グループ協議

授業者から

「私の授業の観てほしいポイント」の説明、授業についての感想等

「私の授業の観てほしいポイント」

- ① ジグソー法について
- ② 発問の仕方について
- ③ 終末について

※詳しくは、「私の授業の観てほしいポイント」をご覧ください。

- ・アクティブ・ラーニングを活用した授業づくりを意識した。
- ・クロストークにより、自信をもって話し合いをさせた。
- ・生徒のまとめから「望ましい生活習慣」というフレーズが予想より少なかった。

各グループからの発表

ワークショップ型分科会

● 授業のよかった点

- ・導入に身近な題材を用いていて生徒が内容に入りやすかった。
- ・小グループの良さ、深まりがあった。
- ・ジグソー法が効果的で、生徒の考えをよく引き出していた。
- ・考える立場を絞って話合いがスムーズにできた。
- ・終末の教師の投げかけがよかった。



授業の終わりに熱く語る授業者

● 工夫改善すべきと考えられる点

- ・本時のねらいを達成するために、ジグソー法はよかったのか。
- ・エキスパート、ジグソー、クロストークでの深まりが弱かったような気がする。
- ・自分の考えがどう深まったか、全体に広められる（学び合い）とよかった。
- ・範読の前に、個人読みをさせてもよかったと思う。
- ・個々の意見や考えをもっと出させたかった。
- ・グループの人数が多かったため、話合いに十分参加できない生徒がいた。
- ・生徒が先生や級友を信頼して、よく発言できていた。教師の切り返しにより、さらに、深められるとよかった。
- ・生徒に発表させる時間をもっと取りたかった。
- ・「主人公」「父」以外の登場人物の心情も考えさせてもよかったのではないだろうか。
- ・終末は、教師側から道徳的価値の押し付けになってしまったような気がする。
- ・終末で個人の考えを深めさせるためにも、生徒がまとめを書き、発表する時間をしっかり確保したかった。



レベルの高い活発な話し合いが行なわれた



それぞれの学校での工夫や悩みも共有できた

指導講評

● 本時の提案授業について

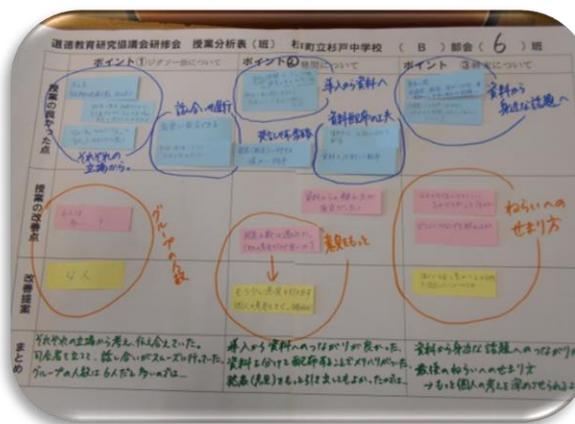
- ・ねらいを達成するために、ジグソー法を取り入れた授業であった。授業改善に向けて、新たなことに取り組んだことは評価できる。
- ・ジグソー法は、「ねらい」に迫るための1つの手法であることを皆さんで確認したい。各教科におけるジグソー法と道徳の時間のジグソー法は違うことを理解して取り組むことが大切である。
- ・どの学校も教科に向けて、指導法の工夫改善を図っている。道徳の時間の本質を理解し、今までのよさを継承しつつ、ねらいに迫るために一層の工夫改善に取り組んでいきたい。

● これからの「特別の教科 道徳」について

- ・まずは、教師自身が道徳的価値と生徒の実態について十分理解していることが大切である。そして、中学生として「新たな学び・気づき」のある授業創りを構成することが必要である。
- ・「特別の教科 道徳」では、道徳性を養うことをねらいとし、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ（今の自分はどうか？）、物事を多面的・多角的に考え（主人公の言動を様々な面からとらえたり、まわりの登場人物など様々な角度から主人公の言動をとらえたり）、人間としての生き方についての考えを深める学習を進めることが大切である。
- ・授業の最初に「学習テーマ（めあて）」を共有し、最後に「今日は新たに何を学んだか」を生徒が自覚できる時間を確保したい。この振り返りが「道徳の評価」につながる。
- ・「本時で1つだけ発問してねらいに迫るとすれば、どうなるだろう」という発想で、中心発問を考えることは有効である。主人公が道徳的価値の実現に向けて一步を踏み出した部分を取り上げて、その原動力（1つではない）を十分に語り合いたい。
- ・国語の授業のように文章読解につながる発問をしたり、中学生という発達の段階において理解していることを確認するだけの授業にならないようにしたい。
- ・生徒にとって新たな学び、気づきがある魅力的な授業づくりのために、今後も東部地区の先生方の力を結集し、互いに生徒のために切磋琢磨していこうではありませんか。



わかりやすかった各グループからの協議内容の発表



よさと今後の改善点が明確に



これからも魅力的な授業を創っていこうと語る指導者